

九州産業考古学会報

第16号 2012年1月1日発行 発行元：九州産業考古学会

本年も九州産業考古学会をどうぞ宜しく願っています。

温故知新と復興



大石道義（西日本短期大学教授、会長）

人知を越え、想像を絶する3.11東日本大震災から、私たちは、可能な限りの教訓を学び尽くさねば犠牲になられた方々、被災された方々に申し訳ないという気持ちでいっぱいです。全国民一同、また専門・分野の方々の一層の御尽力を期させて頂く次第です。そして何よりも、一刻も早く、被災の方々に震災以前の普通の生活に戻る事を願わずにはおれません。

震災の頃、TV・新聞等の基本的報道の把握すら不十分で反省すべきだった私に気にとまった現地の方の声がテレビから耳に入りました。不正確かもしれませんが、「私は、指定避難ルートとは違っていました、道路法面に駆け上ったんです。それで助かったんです。」……………

おかげさ言えば、電撃を受けた気がしました。道路法面の有意義な活用をこの40年程考え続けていた私に、突如として思いがけない回答が飛び込んできたのです。津波を他人事ばかりとしか思っていなかった不屈き者の私ゆえに到達し得なかった道路法面のありがたい価値・人命を救う価値に気づかされた瞬間でした……………

江戸期のジャーナリスト的農学者の大蔵永常（日田出身）は、空閑地としての畦畔へ櫨などの有用樹木を植栽する事を、農民への愛情と合理的思考により農家に推奨してきました。私は35年程前に彼から授かった温故知新としてのグランドデザインを、九州自動車道を対象事例地として提案しました。端的に言う、「現代社会が造り出した負的な空閑地としての高速道の法面に木蠟原料木の櫨を植え、櫨実生産と郷土風景づくりを一挙両得的に果たそう。」というもので、久留米・八女地域で一部実現しています。

このことは、その物（ここでは法面）に多様な価値を発見したり、再創造しようとする姿勢であります。つきつめて考えると、後追いの行為に他なりません。私は今般の大地震を介して、遅ればせながらやっと気づかされました。道路を造る時は、それに関するポテンシャル群・ニーズ群を当初から意識し、フレキシブルに複合的な社会設備を創造していく考え方です。これは常道、基本事かもしれませんが、復興の道しるべの一つと思う次第です。

地球史的な被災の地の復興には、幾多の困難が横たわっている事と思います。ソフト面においてもハード面においても、マクロ・ミクロに亘る温故知新の姿勢は、不可欠と思われ。また、私たち日本人がそれぞれの立場で一丸となって心と智恵と力を出し合い、将来の人々が大いなる温故知新として学ぶ事となる復興を必ずや遂げる事を信じる次第です。

【報告】

平成 23 年度総会・見学会

砂場一明（事務局長）

九州産業考古学会は、平成 23 年度総会を 6 月 4 日（土）に、直方市の直方歳時館で開催した。会場は、明治 31 年（1898 年）に炭鉱主堀三太郎が建造した旧宅を整備したもので、10 年前から生涯学習施設として一般に公開されている。筑豊本線沿いの高台にあり、和風庭園越しに筑豊の山々を望むことができる。午後は恒例の見学会を実施した。

【総会及び研究発表会】

会員 18 名が出席した総会では、旧年度の活動報告や会計報告など議事次第に基づき進行のあと、役員人事の改選を行った。審議の結果、新しい会長に大石道義氏、副会長には清水憲一氏が推薦され満場一致で承認された。事務局長以下は留任となったが、いずれも任期は 2 年間である。

新年度の事業計画では、今秋熊本市で開催される産業考古学会全国大会の認知度向上を主眼とする「肥薩線見学会」を、熊本産業遺産研究会と合同で実施することが承認された。

総会に引き続き行われた研究発表会には一般の方も加わり、約 30 名の聴講者で会場は埋まった。発表は、大石道義氏「福岡県みやま市の内野天然樟脳工場について」、長弘雄次氏「筑豊の近代化遺産について」、市原猛志氏「産業遺産・川南造船所の保存問題に関する報告」、後藤恵之輔氏「山本作兵衛の炭鉱画と私」の順で行われた。限られた時間ではあったが密度の濃い内容で、有意義な知見向上、情報交換の場となった。

さらに地元市民グループからは、旧直方駅舎保存運動の活動状況が映像を混じえて報告された（その後、残念ながら 11 月に解体撤去された）。今年度の総会は参加者が多く盛会であった。これを何とか小会の活性化につなげたいものである。



写真 1 総会の様子（直方歳時館）

【見学会】

大規模で豪華な炭鉱経営者の邸宅は、今や数も少なく貴重な産業遺産である。今回の見学会は、貝島礦業創業者貝島太助の次弟になる貝島六太郎の邸宅を見せて頂ける、めったにない機会ということで、25 名もの参加者がありマイクロバスは満席となった。この邸宅は非公開だが、小会会員藤野昌亮氏の御従兄で屋敷の管理に当たられている藤野慎二氏の多大の御尽力によって、特別に見学の機会を作って頂いた。当日は邸内の案内も賜り、ここに改めて御礼申し上げたい。

宮若市百合野に所在する屋敷は自然林と竹林に深く覆われ、敷地は 3 万坪に及ぶという。戦後一時期、貝島炭礦の関連施設「百合野山荘」として使用されていたこともあり、最寄りのバス停は今も「山荘前」とある。

大正 5 年に落成した建物は、北側を正面とした木造一部二階建てで、茶室や洋間・本座敷・居間などを備え（仏間は移築されて今は無い）、延床面積は 390 余坪にもなる。玄関を建物中央付近に設け、玄関より東側を接客空間、西側を日常の生活空間として明確に区分

されている。大邸宅に相応しい毛利門と呼ばれる正門や庭園を散策しているうち、時間も超過してしまった。



写真 2 旧貝島六太郎邸（記念写真）

貝島邸を出た後も、貝島所縁の地を幾つか訪れてみた。遠賀川支流の犬鳴川右岸に磯光天照神社の森が見える。この神社境内に貝島炭礦の守護神「大之浦神社」が遷座されており、社殿背後には貝島太一翁喜寿記念の銅像がある。その他、境内には江戸時代末期に「遠賀・鞍手両郡御仕組焚石山元」が奉納した石灯籠や、神社の傍には石炭水運時代の守り神「金比羅様」が祀られ、炭鉱の古い歴史も知ることができる。

神社の程近くに、筑豊炭田における最後の坑内掘りであった新菅牟田坑の跡がある。東洋一といわれた地上 53mの白亜の豎坑ビルも昭和 60 年に解体され、運炭鉄道・菅牟田線



写真 3 木造アーケード

は道路に変わり炭鉱諸施設の遺構は全て失われていたが、唯一配給所や商店があった位置に、当時の木造アーケードが奇跡的に取り残されていた。

埋め戻され造成地に変貌している中央露天掘跡の南淵を周って、貝島資料館ともいえる宮若市石炭記念館に到着した。ここでは貝島炭礦の創立から閉山までのあらゆる資料を見ることができる。過去に来館されたことのある方も、六太郎邸の見学直後ということで、視点を変えて貝島の歴史を見直して頂けたことと思う。

帰路の途中、貝島家の墓所である直方市の雲心寺に立ち寄った。この寺は直方藩五万石の黒田家初代・2代藩主の御塔所でもある。柘外れに広大な貝島家墓域の中に立ち、貝島太助翁の像や整然と並んだ 11 基もの巨大な墓石を見上げていると、石炭王国を築いた一族の繁栄の証をここでも改めて見せられたようであった。

「貝島づくしの見学会で、堪能した」との声も聞こえる中、バスは直方駅に到着した。解体の危機迫る旧直方駅舎の横に建つちんまりとした、完成したばかりの新駅舎の前で一行は解散した。終了後の懇親会には、これまた会員外の方も多数御参加頂き、活発な情報交換と懇親を深め、盛会裏に終了した。

<会計報告>

収入は、前年度繰越金 163,083 円と会費・利息の合計 250,105 円

支出は、会報発送費・総会費用など 73,620 円で、決算残高（次期繰越金）は、176,485 円となった。

平成 23 年 3 月 31 日現在
事務局長 砂場一明

【報告】

「しめの文化財ウォーク」

去る 11 月 6 日（日）に「しめの文化財ウォーク」を開催した。

町内外から定員の 20 人が参加した。

旧志免鋳業所の遺跡を歩き、志免の魅力を再発見した。

今回は、旧志免 鋳業所竪坑櫓（重要文化財）→志免鋳業所跡竪坑及び第八坑関連地区（福岡県史跡）→ポタ山→志免町産業遺産収蔵庫→須恵町歴史民俗資料館を見学した。雨の中ではあったが、参加者は鋳業所の解説に耳を傾けていた。資料館では、鋳業所で使われた道具などを見学した。



写真 4 しめの文化財ウォーク

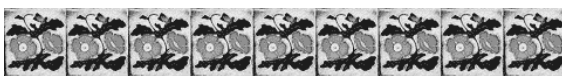
する産業考古学会伊東孝会長と熊本大学崎元達郎前学長による対談の他、産業遺産の定義と保存活用ガイドラインに関する報告討論会が行われ、会場からも活発な議論が行われた。懇親会では熊本名産の各種料理が振る舞われ、夜遅くまで産業遺産に対する思いが各所で交わされた。

翌日の見学会では、熊本県南部から鹿児島県にかけての肥薩線を縦断しSL人吉に乗車するコースと熊本大学の機械遺産をはじめとした市内の各種遺産を見学するコースが用意され、どちらのコースとも充実した見学会が行われた。

来年度は正式決定ではないものの、四国・愛媛県新居浜市での開催が濃厚である。



写真 5 熊本大学工学部研究資料館



【報告】

産業考古学会全国大会（熊本）報告

去る 2011 年 11 月 19・20 の両日にかけて 2011 年度の産業考古学会全国大会及び見学会が熊本市を中心に行われた。

19 日の全国大会研究発表大会では、会長の大石道義はじめ各会員による九州・日本の各所に現存する産業遺産の調査報告が行われ、全国各地から 60 人以上の参加者が熊本学園大学に集まった。午後は熊本の土木遺産に関



【書籍紹介】

貝島関係文献をいくつか

木元富夫（顧問）

今号には貝島六太郎邸の見学記が掲載されている。その付録の意を込めて貝島炭鋳の研究書を紹介したい。何れも地方出版或いは自費出版であり、人目に触れる機会は多くないと思われるが、真摯にして貴重な文献である。まず①畠中茂朗『貝島炭礦の盛衰と経営戦略』

花書院（福岡市、3500 円）、2010 年、②大谷秀樹『貝島家の炭坑経営』私家版、2007 年、である。

①は「組織は戦略に従う」という命題を念頭に置いて、貝島の「創業から第 2 次世界大戦終了時までにおける事業活動の全貌を明らかにしていきたい」という大著であるが、その意図は十分に達成されており、のみならず資料解題や関係文献目録も整っているの、これからの貝島研究のスタンダードとなることだろう。小会では以前に下関市の前田砲台跡（現中国電力所有地）の見学会を行なったが、そこにポツンと「皇太子駐駕籠之處」の碑があって、何とも異様な感に打たれたが、本書によってここが貝島別邸跡である（276 頁）ということを知って得心したことである。

②の著者は『宮田町誌』の分担執筆者でもあるが、本書には「明治・大正期会計帳簿の分析」の副題が付けられているように、多くの会議録や会計帳簿が紹介され分析されている。こうした資料は一般人の目に触れ難いものだが、当然のことながら、炭鉱経営は財務的経理的裏付けなしにあり得ないことをひしひしと感じさせてくれる。なお畠中氏による書評が③『エネルギー史研究』第 24 号（九州大学、2009 年）にある。同誌が貝島研究を含む炭鉱史研究の宝庫であることは言うまでもないが、その紹介は割愛する。

最後に福岡県宮若市に④「筑豊の本シリーズ」を発行する「自分史図書館」社があることを紹介しておきたい。これは同市宮田 4581 在住の福田康生氏（電話 0949-33-1843）が運営するもので、原稿から装丁・印刷・製本まで同氏一人でやっているという。写真や造本について望蜀を願いたくなるが、筑豊炭鉱史資料の発掘に懸けた熱意は壮とすべきもので、シリーズ中に貝島関係だけでも『炭鉱王・貝島太助の物語』『赤心の人・貝島太市』『貝島炭礦と貝島家写真集』等がある。

【お知らせ】

『筑後の近代化遺産』出版

九州産業考古学会では、一部メンバーを中心に『北九州の近代化遺産』、『福岡の近代化遺産』などの近代化遺産シリーズの一環として、『筑後の近代化遺産』の観光準備を進めていたが、2011 年 12 月 1 日付でようやく書籍を刊行する。

詳細項目には、世界遺産国内暫定リストにも記載されている三井三池炭鉱の各炭鉱施設のほか、久留米の主要産業であるブリヂストン、ムーンスターなどのゴム産業とそれにかかわる遺産、久留米絨や都市施設群、柳川や大川の各種水に関わる遺産群、また八女地域の伝統産業から派生した施設群など、従来のシリーズにはない幅広い産業とそれに関わる遺産が掲載されている。

編著者名義は九州産業考古学会筑後調査班、A5 判・並製・200 頁（カラー150 頁）、出版社は以前からのシリーズに引き続き弦書房。定価 2100 円（本体 2000 円）、福岡県内をはじめとする各種書店の他、amazon.com などのネット書店からでも購入できる。ISBN コードは以下の通り。

ISBN978-4-86329-067-9



写真 6 『筑後の近代化遺産』

【お知らせ】

『九州大学百年史写真集』出版
市原猛志(事務局)

九州大学創立百周年事業の一環として、「九州大学百年史」の編纂作業が行われ、筆者もその一端に関わっているが、この度その1冊目として写真集を刊行した。

写真集には、九州帝国大学の設立以前の福岡藩校賛生館時代や京都帝国大学福岡医科大学の歴史を含めた約130年の歴史に関わる1100点あまりの写真が掲載されている。編集は大学文書館が行い、販売は九州大学生協同組合が行っている。電話やファックス、インターネットによる通信販売も受け付けている。A4上製本、全278頁。頒価は3800円だが、2012年4月30日までは特別価格2980円（送料別）で販売している。詳しくは下記ウェブサイト参照。

<https://www.kyushu-bauc.or.jp/kyu100th/goods.html>

問い合わせ：九州大学生協同組合文系購買書籍店

電話：092-651-1529

FAX：092-642-4788

Mail：jb@coop.kyushu-u.ac.jp

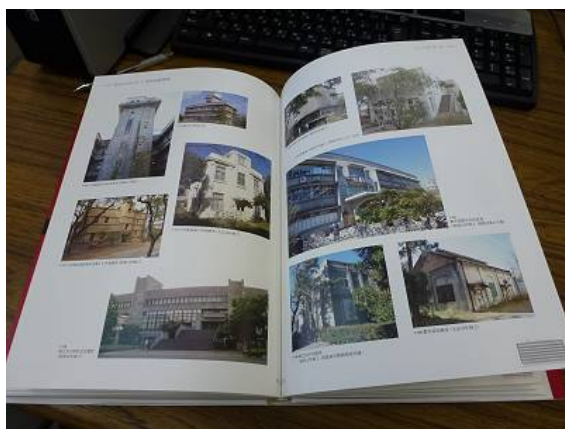


写真 7 『九州大学百年史写真集』

【お知らせ】

第35回全国町並みゼミ福岡大会

来年行われる全国町並みゼミ大会は福岡で開催される予定であるが、この中の分科会のセクションのひとつを九州産業考古学会で受け持つ予定である。詳細は小会ウェブサイトなどでも紹介するが、ここでは開催日など基本情報のみ記す。

開催日：2012年6月1日（金）～3日（日）
テーマ：「城下町福岡を彩る歴史的風景～都市に生きる町並みとアジア文化」

内容：講演会、シンポジウム、分科会、各地からの報告、町歩きなど

問合せ：博多津にぎわい復興計画研究会

(TEL:090-4582-4188/FAX:0942-75-4017)



【お知らせ】

ウェブサイト移転について

本学会は2003年よりaaa!cafeの提供による無料レンタルサーバを利用してウェブサイトを運営してきたが、2011年12月1日にaaa!cafeによる無料ホームページの提供が終了したことに伴い、株式会社paperboy&co.による有償提供サーバ「ロリポップ」にサイトの移転を行った。

なお、今回の移転はレンタルサーバのサービス終了に伴う緊急措置であり、契約は一年更新、また現在のところ独自ドメインの取得などは行っていない。

移転先のアドレスは下記の通り。

<http://kias.kilo.jp/index.php>

各自ブックマーク・お気に入りの修正をお願いするとともにブログやウェブサイトからリンクを張っている方にもリンク先の修正をお願いする次第である。

【報告】

旧直方駅舎の保存及び活用に関する要望書

2010年9月6日付けで、直方市長宛駅舎の保存及び活用に関する要望書を提出した。以下、内容を転載する。

福岡県直方市長
向野敏昭様

九州産業考古学会 会長 大石道義
北海道産業考古学会 会長 山田大隆

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

私ども九州産業考古学会及び北海道産業考古学会は、歴史的に貴重な産業遺産の調査研究及び保存活用法の研究を目的とする学術団体です。

現在貴市におかれましては、旧直方駅舎を取り壊し、跡地を駅前広場の一部とする造成案が進められていると聞き及んでおります。歴史的遺産とはいえ、旧駅舎を保存するには巨額の費用が必要になり、それは市財政にとって重い負担になるとの懸念もお持ちかと拝察します。しかしながら解体・撤去にも相応の経費が必要になるものです。

ご承知の通り、旧直方駅舎は、明治24年に筑豊興業鉄道が建設した鉄道線（現・筑豊本線）の需要増大に合わせる形で、明治43年（1910年）に改築された駅舎です。新築の背景には、日本の近代化に合わせて需要が拡大しつつあった石炭資源を、よりスムーズに消費地へ輸送しなければならないという、筑豊を代表する基幹都市直方に相応しい使命がありました。そのためこの駅舎は構内の側線を非常に多くとっており、また駅舎自体もかなり大振りに造られています。また位置的に遠賀川を挟む形で駅舎が設けられたことは、水路と陸路の両面で産業的繁栄を遂げていた直方の歴史を如実に表しており、旧駅舎は、その存在自体が日本の近代エネルギー産業を支えてきた直方の重要な歴史的証人であると言えます。

すなわち旧直方駅舎は産業文化財としても、また歴史的建築物としても、地域にとって記念碑的な施設であります。かかる貴重な歴史遺産を棄損することになる現在の計画案に賛同することはできません。

九州産業考古学会はかつて何度か直方市街及び駅舎の調査見学会を行なったことがあり、その歴史的価値を高く評価しておりましたが、最近になって出されているいくつかの緊急調査報告書や保存要望書も、私どもの見解を裏付け補強するものと考えております。中でも、旧駅舎の部材には初代博多駅の部材が転用されているという説が物証的にも有力化している点については、九州の鉄道文化史の根源に関わるもので、本格的な学術調査が必要とされる段階にあると考えます。

貴市では、古町・殿町エリアの重要伝統的建造物群としての選定を目指しているとも聞き及んでいます。それには大いに賛同いたしますが、市街地の建造物群と旧駅舎は有機的につながっていたことを忘れてはならないでしょう。またそうした視点を生かすことによって、旧駅舎の文化的また観光的価値もさらに増すものと考えます。

以上述べましたように、旧直方駅舎の産業文化遺産としての高い価値を十分勘案して頂き、ぜひとも本格的調査の上、将来的活用の道を御検討下さるよう御高配をお願い申し上げます。敬具（以下、連絡先省略）

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は【報告】（700字～1400字程度）や【研究発表】（1400～2800字程度）、【お知らせ】（400字以内）など。いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更する場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

■■会報第16号・目次■■

| | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 【巻頭言】 | 【お知らせ】 |
| 温故知新と復興 ……………大石道義 1 | 『筑後の近代化遺産』出版 …………… 5 |
| 【報告】 | 『九州大学百年史写真集』出版 ……………市原猛志 6 |
| 平成23年度総会・見学会 ……………砂場一明 2 | 第35回全国町並みゼミ福岡大会… 6 |
| 「しめの文化財ウォーク」 …………… 3 | ウェブサイト移転について …… 6 |
| 産業考古学会全国大会（熊本）報告…4 | 旧直方駅舎の保存及び活用に関する 要望書 …… 7 |
| 【書籍紹介】 | 会報原稿募集 …… 8 |
| 貝島関係文献をいくつか ……………木元富夫 4 | 今後の予定 …… 8 |

| 今後の予定 | | 会費納入・ご寄付のお願い |
|----------------|-------------------------------|--|
| 1月 | 新年会（会場未定） | 当会は年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。 会費納入・寄付先口座（一覧） ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店（店番691） 普通 1914369 九州産業考古学会 |
| 冬季 | 大神回天基地跡見学会（大分県日出町） | |
| 6月 1～ 3日 | 第35回全国町並みゼミ福岡大会（九州産業考古学会協力予定） | |
| 春季 | 年次総会 | |

<編集後記>

今回から会報のフォーマットをword形式に改めた。そのため、各コーナーの体裁以前と異なるものとなっているが、会報担当自体をこれから私が担えるか分からないための処置とご了解いただきたい。原稿は集まるのか従来のような構成でよいのかなど、「地域情報発信」としての会報は、今存亡の危機に立たされている。会員各自是非とも現状を意識し、会報を継続すべきか否か。また出すのならば執筆という形での「責任」を是非とも担って頂きたいと願っている。（市原）

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付
 TEL&FAX : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL : http://kias.kilo.jp

学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者 (iota_titanus@yahoo.co.jp) まで連絡願います。